

かぐらおが

(題字は前学長 山田守英氏)

第 48 号

昭和61年 5月15日

編集 旭川医科大学
厚生補導委員会
発行 旭川医科大学教務部学生課



(写真撮影 心理学 土肥 聡明)

飛 翔

思考過程の「短絡」……………清水 哲也…………… 2	課外活動報告…………… 6
海外だより	昭和61年度の主な行事…………… 7
「晩香坡 (VCR) にて」……………長 和彦…………… 3	昭和61年度運営組織…………… 7
第8回卒業証書授与式…………… 4	昭和61年度新入生研修 (第1回目) …… 7
学位記授与式…………… 4	スポーツ安全協会傷害保険の加入について…………… 7
昭和61年度入学式…………… 5	課外活動短信…………… 8
研究室紹介 (R・I研究施設) …… 6	窓 外……………金沢 徹…………… 8



思考過程の「短絡」

清水哲也

あの「くすり」をのんでから、こうなった、あの検査を受けてから「工合」がわるいといった、因果関係の短絡に、とまどうことが多い。

なかには、なるほどと思うこともあるが、大部分は医学的には荒唐無稽な「思いこみ」にすぎず、口をあぐりあけて、患者さんの顔をあらためて眺めることもある。

ところで、このような思考過程における論理回路の短絡が、一方的に患者側にのみみられる現象かという、さにはらず医師側にも結構多いようである。

某月某日、さるにて消化器領域における超音波診断の「大先生」より患者さんのご紹介を頂いた。件の書簡に曰く、「卵巣癌です、緊急手術の要あり」。大先生のご託宣であるから、恐れかしこんで内診をしたところ、どう考えても、この腫瘤の位置が直腸内肛門側にあるように思えてならず、そこで、あらためて「問診」をとりなしたところ、この患者さんは、実は4日前に胃のバリウム検査を受け、それ以後、便通がないことがわかった。そこで再度、内診台にあがって頂いて診察をしたところ、タイミングよく、患者さんは突然、顔を真赤にして怒噴をはじめ、その腹圧を加えるごとに会陰部というか、肛門周辺部がもりあがり始めたのである。肛門鏡をかけて視診をこころみるに、白いバリウムが核となっている「糞石」であることがわかったのである。怒噴は強烈をきわめ、顔貌が苦悶状を呈して来たので、「子宮内容除去術」の際に使用する器具を使って巧みにつに分割して、糞石の除去によりやく成功した。この硬固な糞石を分割するのに力が入って思わず、「なに糞!!」などとわめくものだから、後に立って介助していた看護婦さんが吹き出す始末。

子宮後下方の「充実性エコー」→卵巣癌と思考過程を短絡した結果が、このような誤判断に陥った原因と考えられる。もしもこの超音波診断学の大先生が、この患者さんは実は4日前に胃バリウム検査を受け、それ以後、便通がないという「問診情報」を確実に把握していれば、このような診断回路のショートはおこりえなかったかも知れないし、あるいはまた、超音波診断である限り、「異常所見が存在するか?」という存在診断、存在するとすれば、「音響学的に如何なる性状であるのか」という性状診断、そして最後に印象(impression)、「自己の過去の

経験から、もっとも考えられるものは」といった思考過程をたどって行けば「卵巣癌、緊急手術を要する」といった誤りはある程度、さげえたのではなからうか。

第2話は、私の6年先輩のお話。この先輩の内診所見の正確さはかねて定評のあるところで、私のもっとも尊敬している婦人科医師のお一人である。手拳大の子宮筋腫と内診上、確信をもったが、そのあとで見せられた超音波断層のポラロイド写真があまりにもスポッとぬけた像、つまりcystic patternを呈しているために、迷いに迷ったあげく、卵巣のう腫と診断名を変更、数日後に開腹したら、子宮筋腫であったという。これなどは、なまじ誤った画像情報が与えられたために、診断に至るdecision treeのたどり方を誤ったものであろう。

この先輩もまた思考回路を短絡したもので、子宮を何故、卵巣と誤ったのかを考えてみよう。超音波断層法上での子宮であるという証拠は、尿をみたした膀胱の底面にあたる部分にダブルラインといわれる、腔壁に相当する2本の線状の画像が認められ、このダブルラインを上方にたどることによって子宮という臓器診断が可能になる。件の先輩はこの思考過程を一つ省略したことにより子宮を卵巣と誤判断したわけである。

次に、たしかに均質な子宮筋腫は超音波画像上、袋に水がたまったような、いわゆるcystic patternを呈することがあるが、この場合でも、感度をさげて行くと、筋腫であれば、筋腫底面の輪郭は消失する筈である。ところがもしも、袋に水がたまった卵巣のう腫であれば、いかに感度をさげて行っても、腫瘤底面の輪郭は消失しないのであって、この感度断層法を無視して、子宮筋腫を卵巣のう腫と誤診してしまった次第である。

「思考」をたどる際、その論理回路の短絡がいかにか、ことの判断を誤らせるかをまざまざと見せつけてくれた好例である。

そして、えてして「感情」に走ると、この傾向に拍車がかかるものである。

ところで、「お前は一体どうなんだ、やけにきとり切ったようなことをいうけども?」。

しかり、「感情」によって思考回路を常時短絡させている短絡人間の最たるものと自覚しているが、この「病氣」は多分治癒に至ることはないであろうと「自己診断」している。
(産婦人科学講座 教授)

晩香坡 (VCR) にて

長 和 彦

世界を旅して巡ってきた人が、最後に安住を求めて戻って来る街がこの VCR だそうです。ここにはローマの歴史もバリの華やかさもニューヨークの活気もありませんが、人の心をなごませる美しい海や山があり、それが何物にも換え難い VCR の魅力になっているように思われます。私がそんな VCR に到着したのは昨年(1990)の9月16日で、折しも街全体が秋雨に洗われて、しっとりとした風情を漂わせており、大変落ち着いた街というのが第一印象でした。

VCR は British Columbia (BC) 州最大の都市で、人口約 125 万(衛星都市を含む)を擁し、トロント、モントリオールに次ぐカナダ第三番目の都会です。VCR はフレージャー河の河口に位置し、しかも外海からは、防波堤のように長く横たわるバンクーバー島によって護られている天然の良港です。BC 州の豊富な森林、鉱山資源、水産物、更にアルバータ州のオイルサンド、マニトバ州の小麦等の輸出、日本などからの自動車、カメラ、電子機器等の輸入と、将にカナダの西の玄関といったところ(1)です。殊に最近、地理的、経済的にも日本をはじめとする太平洋沿岸諸国に対する関心が深く、University of British Columbia (UBC) の中にはアジア研究の講座もあり、その関心の深さを思わせます。VCR の気候は、太平洋を環流する海流の関係もあって温暖で、一冬に雪が降っても二、三度、全然雪のない年もめずらしくない程で、他のカナダの地域からみると想像も出来ないくらい穏かです。その為か、人口の流入が多く、おむねイギリス系住民が51%、ドイツ系6.9%、中国系3.6%、更にスκανジナビア系、オランダ系、原住インディアン、ウクライナ系と続き、日系人は1%以下という構成で、多民族社会を形成しています。殊に、BC 州はイギリス系移民の割合が高いためか、どちらかと言うと保守的な面が強く、それぞれの文化を受け入れ、同化するバイタリティーを持っていると言うよりはむしろ、それぞれの文化を認め、大切に守り、共存させようという印象で、将にモザイク文化といったところ(2)です。

UBC は、BC 州で唯一の医学部・歯学部をもつトロント以西最大の州立大学で、1915年の創立です。12の学部、8つの専門学校、9つの研究所を持ち、VCR 市の西部、ジョージア海峡に突き出た半島の突端に位置し、990acres のキャンパスを持っています。その中には、新渡戸稲造を悼んで造られた Nitobe Memorial Garden もあります。

UBC の医学部に入る為には、最低3年間の Faculty of Science または Faculty of Arts を修了した上で MC-AT (The Medical College Admission Test) に合格しなければなりません。UBC の医学部は4年制で、前半が基礎医学、後半が臨床医学となっていますが、1学年の内から臨床の Introduction があり、また、臨床に移った三学年でも基礎医学が学べる仕組みになっており、患者を診ながら臨床医学を学び、必要に応じて基礎医学も学べる柔軟性は、多いに学ぶべき所があるように思われます。

UBC の小児科は、大学のキャンパスから離れた、VCR 市のほぼ中央に位置する BC's Children's Hospital の中にあります。この小児病院は、BC 州の子供に質の高い医療サービスを提供する目的で、4年前に新築され、臨床と研究の両立を計る上からも、UBC の研究者の殆んどが小児病院の Clinical staff となっています。更に、昨年同敷地内に Research Center が建てられ、活動を開始しています。私のいる小児神経部門は、小児科の Subdivision の1つで、特に、テンカン、筋疾患、発達障害などの project が組まれています。医師だけでなく、他の Paramedical との連繋の良さは感心させられました。また、日本と比べて Dyslexia の患児が多いのが目に付きます。その理由を私なりに考えてみますと、この疾患は基本的には Cerebral Dysfunction (殊に Cerebral Lateralization の障害) によって起こりますが、更に①早すぎる教育開始時期—カナダでは5才から学校 (Kindergarden) に通う。②モザイク文化・Multi-language の影響—例えば、父親はオランダ語、母親はフランス語、家庭内の共通語は英語といった言語環境の家庭がめずらしくない。③英語は難しい言語で、日本語ほど Phoneic でない。等の因子によって惹起されると考えられます。更に、最近のカナダの傾向として、欠陥のない子供すなわちあらゆる面で平均点以上の子供が望まれる教育・社会事情がこの疾患の Care、Management を複雑にしている様に思われます。1つの疾患を通してカナダ社会の一面を垣間見た思いがいたしました。子供の発達・成長を見守る小児科医として、改めて単に疾病を治療するだけでなく、同時に子供を取り囲む環境にも目を向ける必要性を痛感させられています。

いづれにせよ、あと残された数ヶ月間、出来るだけ見聞をひろめ、広い視野から物事を見てきたいと思っております。
(小児科 講師)

第8回卒業証書授与式

第8回卒業証書授与式は3月25日(火)10時30分から本学体育館において挙行された。

式では、本学室内合奏団によるクラシックの調べが流れ、父兄・教職員が祝福する中で、学長から卒業生114名(うち女子学生8名)の一人ひとりに卒業証書が手渡された。

ついで学長から「現代社会では、ひとつ油断すれば医師も人を傷つける側に回りかねない。医師の使命はあくまでも、病に苦しむ人々を助けることである。」と門出にあたり、はなむけの言葉が贈られた。

式終了後は、学生食堂で祝賀会が催され、和やかな雰囲気の中に、卒業生にとって大学生活最後の一日が終わった。

(学生課)

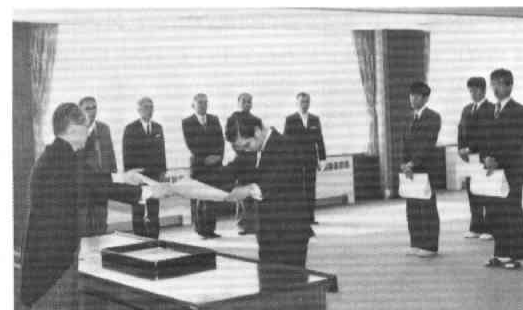


学位記授与式

3月25日(火)午前9時30分から本学第1会議室において大学院医学研究科を修了した9名に医学博士の学位が授与された。

9名の氏名・専攻・学位論文題目は次のとおりです。

(学生課)



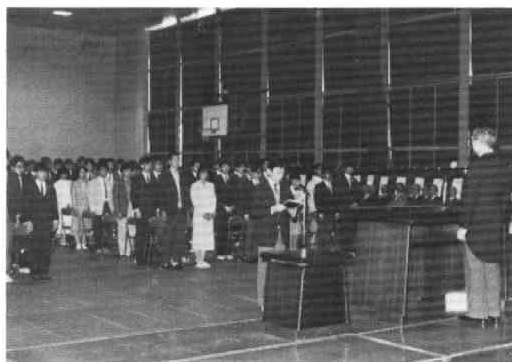
氏名	専攻	学位論文題目
小端哲二	生体防御機構系 免疫学部門	ヒト第21染色体に支配されるT細胞膜抗原：T細胞活性化に関与する分子
稲尾茂則	生体情報調節系 神経科学部門	Characterization of a phosphoenzyme that is involved in the Ca^{2+} - Ca^{2+} exchange catalyzed by the Ca-ATPase of sarcoplasmic reticulum vesicles. (筋小胞体のCa-ATPaseによって触媒される Ca^{2+} - Ca^{2+} 交換に関与するリン酸化酵素の特性)
中村隆文	細胞・器官系 発生学部門	単クローン抗体により検出される絨毛性腫瘍(絨毛癌および胎状奇胎)細胞上のTrophoblastの分化抗原
松本博之	生体情報調節系 循環呼吸動態学部門	新しい呼吸インピーダンス測定装置の試作とその有用性について
片岡 亮	生体情報調節系 循環呼吸動態学部門	Monocrotaline 肺高血圧症の発生機序に関する研究
澤 雅之	生体情報調節系 代謝内分泌学部門	Cryopreservation of Fetal Rat Liver Tissue —a morphological investigation— (ラット胎児肝組織の凍結保存に関する実験的研究 —形態学的観察—)
河野 透	生体情報調節系 代謝内分泌学部門	Cells of origin innervating liver and their axonal projections with synaptic terminals to the liver parenchyma in rats. (肝臓支配神経の起始細胞と肝実質内神経終末を含めたそれらの軸索投射)
石橋隆治	生体情報調節系 化学物質作用学部門	Difference in the Time Course between Increases in Coronary Flow and in Effluent Adenosine Concentration during Anoxia in the Perfused Rat Heart. (ラット無酸素灌流心臓における冠流量増加の経時変化と冠流出液中的アデノシン濃度上昇の経時変化の不一致)
金井直樹	生体情報調節系 神経科学部門	上顎洞粘膜再生現象についての実験的研究 —ラット舌筋内移植法を用いて—

昭和61年度入学式

昭和61年度入学式は、4月11日(金)午前10時から本学体育館において挙行された。

式では、新入生120名(うち女子学生23名)を代表して青木陽一郎君が「学則その他の規程を遵守し勉学に励みます」と宣誓。ついで学長から「大学の勉強の内容は一定の基準によって用意されているが、それをどう消化するかは、个性的に自由に……」との式辞があり、新入生も自覚を新たに、大学生活の一步を踏み出した。

(学生課)



昭和61年度入学者

研究室紹介

■ R・I 研究施設 ■

片桐 一

学内の共同利用施設として、昭和50年に開設された R I (Radio Isotope) 研究施設は、本学の研究活動が活発になると共に、これと並行して盛んに利用されています。最近の医学研究は多様化しそして技術革新の波がひしひしと押し寄せ、この時の流れに対応出来るよう諸種機器の整備を遅々ながらすすめています。生体内に極く微量にしか存在しない物質の動態の解析には放射性同位元素をトレーサーとして用いた研究が急速に増加し、又、生体内活性物質の検出、定量にはラジオ・イムノアッセイが盛んに利用されています。これらの放射性同位元素を使用してすすめられる実験、研究は、法律で厳しく規制され、本学においては R I 研究施設で行うことが決められています。当研究施設は、放射性同位元素を使用してすすめられる実験の共同利用施設であることは勿論のこと、さらに放射線による生体の影響を解析する研究にも対応するために、昨年度γ線照射装置が設置され、動物、細胞等に及ぼすγ線の影響を解析し得るようになりました。近い将来には、生命現象の基本である DNA の解析が出来るような施設、設備を整えようとしており、前運営委員長(大河原 章教授)から引き継いで現施設を拡張し(アイソトープ・遺伝子実験実習センターの仮称で申請中)、研究活動が一層活発にそして円滑に行えるよう計画しております。

当研究施設では、運営委員長(病理学第二講座)、吉田放射線取扱主任者(細菌学講座)の指揮のもとに、鹿島、長原、田口各技官と中尾事務官が、放射線同位元素、各種機器等の管理にあたり、2~3年に1回行われる科学技術庁の恐怖の立入検査に合格するよう悪戦苦闘しながら努力しております。当研究施設には種々の法的制約がありますが、利用者のための研究施設である点を常に考え、より良い実験環境作りを心掛けております。R I 利用に関して不明な点がありましたら管理室で気軽に相談下さい。

R I 研究施設を利用して、世界に誇れる研究成果が多く生まれることを望んでいます。

(R I 研究施設運営委員会委員長)



課外活動報告 シリーズ 9 スキー部

東医体主管を終えて

第6学年 大河原知水

35年に1度の不幸がやっと終わった。思えばこの2年余の何と長くまた忙しかったことか。実を言うと、私が実行委員長になったのは、「何かのはずみ」だったのである。

何かのはずみとはいえ、持たされる責任には変わらず、身に余る光栄に、何度も押し潰されそうになりながらも、支えてくれたのは、東教授の暖い眼差しと、愛すべき後輩たち、力強い同僚の声、そして、東日本 900名のスキーを志す医学生たちの励ましであったと思う。

準備、当日には、富良野市、富良野スキー連盟、麓郷中学校を始めとした多くの方々への支援に支えられ、何とか全日程を終えることができた。

はたして、成功か?と言われると、良くわからない。

大会に出場する選手ならば、優勝すれば、大成功なのだろう。しかし、大会運営の立場からすると何をもって成功と言えいいのだろうか?「良い大会だった。」と言ってくれる人もいた。しかし、必ず不満を持った人も居るに違いないのだ。もう一度やらせてもらえるなら、いろいろやりなおしたい事もある。

成功おめでとうなんぞと言ってくれる人も居たが、私にはその言葉はくすぐったい。失敗ではないかもしれないが、すべての選手の満足を持って成功とするならば、今回の結果は決して成功とは言えない。

ならば、成功なぞ有り得ない。

次期主管校の方々も、絶対の成功なぞ有り得ない事を胆に銘じて99.9%の成功に向けて精進していただきたい。

そしてお世話になった多くの方々に心からの感謝を申し上げてペンを押し出すことにする。

(第28回東医体冬季大会 実行委員長)



昭和61年度の主な行事

今年度の主な行事は次のとおりです。

4月11日	入学式
4月21日～22日	新生入研修(第1回目)
6月12日～15日	医大祭
9月3日	体育大会
9月24日	解剖体慰霊式
10月27日～28日	新生入研修(第2回目)
10月30日～31日	
3月25日	第9回卒業式

(学生課)

昭和61年度運営組織

本学には、医学教育についての調査研究、教育課程の編成、修学指導、授業及び試験の実施、単位の修得及び履修、学籍関係等について審議する機関として教務委員会があります。

また、学生の厚生補導に関する調査研究、学生の課外活動、福利厚生等について審議する機関として厚生補導委員会があります。

両委員会の昭和61年度における構成は次のとおりです。

(教務委員会)

委員長	石橋 宏 (副学長)
副委員長	牧野 幹男 (図書館長)
委員	岩淵 次郎 谷本 光穂
	美甘 和哉 小野 一幸
	松嶋 少二 金沢 徹
	宮岸 勉 八竹 直
	米増 祐吉

(厚生補導委員会)

委員長	石橋 宏 (副学長)
副委員長	笹森 秀雄
委員	丸子 基夫 平塚 寿章
	黒島 辰汎 藤沢 仁
	佐藤 洋一 並木 正義
	海野 徳二 高橋 三郎
	酒木 保



昭和61年度新生入研修(第1回目)

新生入諸君が1日も早く豊かな大学生活を送れるよう、新生入研修が4月21日(月)・22日(火)の両日、午後5時から7時まで第2・3・4セミナー室及び和室で行われた。

研修は、新生入を8つのグループに分け、1グループを2名の教官が担当して行われ、新生入は自己紹介及び懇談を通じて、学生生活の指導・助言などを受けた。

(学生課)



スポーツ安全協会傷害保険の加入について

課外活動中の事故の増加に伴い、事故発生に備えて補償対策の確立が必要となって来ており、こうした要望にこたえた保険が「スポーツ安全協会傷害保険」です。

○本保険に加入できる団体………スポーツ団体及びその他の社会教育団体で、指導監督者を置き、10名以上の団員で構成されている団体

○加入受付期間………本学での受付は昭和62年1月16日まで

区 分	対象となる団体	
第 1 種	B	文化系団体
	C	(第2種以外のスポーツを行う団体) サイクリング等
第 2 種	A	山岳等
	B	空手・柔道・合気道・スキー・ラグビー サッカー等
	C	剣道・弓道・卓球・庭球・バスケットボール バレーボール・バドミントン・陸上競技 水泳・ゴルフ・ボディビル等

・保険料と保険金額

区 分	保険料 (年間)	死亡・後遺 障害保険金	入院保険金 日 額	通院保険金 日 額	
第1種	B	1,200万円	3,700円	1,000円	
	C				420円
第2種	A	1,200万円	3,700円	1,000円	
	B				4,300円
	C				1,570円

○保険期間………加入手続完了の翌日の午前0時から昭和62年3月31日午後12時まで

なお、詳しくは学生課学生係にお尋ねください。

(学生課)

課外活動短信

第28回東日本医科学生総合体育大会（冬季スキー部門）

富良野市

男子 優勝：旭医大、2位：北大、3位：札幌医大

女子 優勝：旭医大、2位：札幌医大、群大、女子医大

（男子）大回転 1位：高原 祥（6年）

3位：木ノ内基史（5年）

回 転 1位：木ノ内基史（5年）

2位：高原 祥（6年）

15kmXC 1位：石原 敏道（6年）

2位：岡井 隆広（6年）

8 kmXC 1位：石原 敏道（6年）

2位：岡井 隆広（6年）

3位：石井 薫（5年）

リレー 1位 旭医大 A（石井、石原、岡井、大久保）

（女子）3 kmXC 3位：谷 隆子（4年）

5 kmXC 3位：谷 隆子（4年）



IDE

昨年教務委員会の指示でIDEに出席する機会を得た。IDEという名前は私にとって初耳であったが、詳しいことはつい聞きそびれて実体がわからないまま会議に出る仕儀となった。そのあといろいろ聞いてみると、存外IDEは知らない人が多いようで、この機会に少し紹介してみることにした。

会議のパンフレットによると、IDEとはINSTITUTE FOR DEMOCRATIC EDUCATION（民主教育協会）の略である。“民主教育”という、何か思想的な偏向をもつ団体を連想させるが、実際にはそうではなく、まったく中立的な民間の機関であった。民主教育協会の“民主”は創設当時流行した接頭語がそのまま居座ったものらしい。1954年の創立というから、かなり長い歴史と沿革をもつわけで、その初代会長は高名な嶺山政道先生である。協会創設の趣旨書を見ると、「教育を通じてわが国に真の民主主義を確立し、その普及をはかることを目的として、学校教育・大学教育の諸問題の解決・改善をはじめ、市民教育・成人教育等の広い分野にわたり、いろいろな事業活動を行う」とあり、1972年の規約改正では、さらに「高等教育への貢献」が再確認され、これを事業の重点とすることが決められている。

さて、昨年北大で開かれた会議の主題は「今日の大学生」で、副題は「教師からみた学生像と学生からみた学生像」であった。これは、現代の学生像にもとづいて教師と学生の間にあるギャップに教師がどう対応したらよ

いかを多角的に討論し、大学教育の活性化を図ろうとするものであった。出席者は道内の諸大学、高専、高校の先生がたで、総勢38名であった。

会議では教育現場での苦労を反映してか、おもに現代学生のネガティブな側面が強調されて話題の中心となり、それに対して教師がどのように対応すべきか活発に議論された。昨今の学生に共通する気質として、幼児化の傾向がつかまっているとか、底抜けに明るくみえるけれども実はこれは他人の痛みを感じないように育てているためであるとか、気楽な友人としての横のつながりは好むが先輩と後輩、教師と学生といった縦のつながりは好まないとか、このような傾向は学生の大衆化によるものであるとか、さまざまな視点からさまざまな問題点が指摘された。

高校や高専の先生の話を書いていると、その学生像は私たちが日頃大学で感じているものとほとんど同じようで、学生は大学にきたからといって格別変化も成長もしないように思われなんとなく気落ちした気分になった。若干興味をひいたのは、高校と高専では教師がみんな同じような考え方で学生の指導にあたらないう学生に戸惑いが生じ教育効果があがらないということであった。この観点から教育方針の統一がきわめて重要なこととしてしきりに強調された。これは至極もつともご意見のように思われ、大学でもその学生像は高校や高専と本質的に違わないとすれば同じことがいえそうなものなのに、大学側からこれに同調する声はほとんどきかれなかった。大学には多様な価値観の共存を許し助長する気風があって、それが大学の基本的な立場であるとみる考え方が根強く存在するから、教師の間で教育方針を一定方向に統一しようとする姿勢につい異和感をもつのは当然のことかもしれない。そうだとすれば、学生がさまざまに異なった価値観をもつ教師に出会いこれに戸惑いながら成長していくのが大学教育の本来の姿であるとみることもできよう。IDEは日頃教育を考えることの少ない私に、なにかしらその機会を与えてくれたようである。

（生化学第二講座 教授）